



パブリックアウトリーチ

## パブリックアウトリーチについて

矢治健太郎（かわべ天文公園）

この「パブリックアウトリーチ」という言葉、どれくらいの方がご存じでしょうか。「パブリックアウトリーチ」は、最近海外の天文関係のホームページで目にするようになった言葉です。この言葉が初めて登場したのは、ハッブル宇宙望遠鏡のホームページだと言われています。わたし自身は太陽関係のホームページでよく見かけるようになりました。とはいえ、わたし自身もパブリックアウトリーチが一体どういった概念を表すのか、よくわかりませんでした。なんとなく「教育普及」という意味で捕らえていたのですが、どうやらそれだけではないようです。また、いろいろ人に聞いてみたところ、「パブリックアウトリーチ」という言葉が日本ではそれほどメジャーでないことに気がきました。

英和辞典で「アウトリーチ (Outreach)」を調べると、「市民活動や福祉活動のすそ野を広げる運動」とありました。さらに、元々は、教育学、とくに博物館学で使われる用語で「博物館がその施設外で行う教育普及事業の一形態」とありました。こうなると、教育普及という意味で、アウトリーチという言葉を使っているのかという気がします。ところが海外のWebサイトを見ると、「Education and Public Outreach」と「Education」とは異なる意味で使っている気がします。そこで、上でも述べたように、Outreachという言葉に、教育普及という言葉以外のニュアンスが含まれているような気がしました。人に尋ねたり、Webで調べた結果、「パブリックアウトリーチ」には、「教育普及」「情報公開」「社会への還元」「予算獲得」「後継者育成」といったポリシーが含まれているのではないかと考えています。

そこで、今回の天文情報処理研究会の会合の案内をするにあたり、パブリックアウトリーチという言葉になじみの少ない人のために、以下のような文章を盛り込みました。

『今回のテーマは「パブリックアウトリーチ (Public Outreach)」です。最近いろいろところで「パブリックアウトリーチ」ということばを耳にするようになりました。「パブリックアウトリーチ」には教育普及・社会への還元・情報公開などいろいろな意味合いが含まれていると思います。また、海外の国際会議では「パブリックアウトリーチ」のセッションを設けるところも増えてきました。それでも、「パブリックアウトリーチ」がどういった事柄を示すのかまだよくわからないところもあります。今回の天文情報処理研究会では

- ・ホームページ
- ・データ公開・画像提供
- ・プレスリリース
- ・メーリングリスト
- ・書籍・ビデオ・CDROMの出版
- ・その他

などの各研究機関（国立天文台、宇宙科学研究所、宇宙開発事業団、日本天文学会など）の行っているパブリックアウトリーチ活動について報告し、様々な立場の方から今後のパブリックアウトリーチ活動に望むことを提案していただき、パブリックアウトリーチへの理解を相互に深めたいと思います。そこで、特に

「〇〇の行うパブリックアウトリーチ」

「〇〇が望むパブリックアウトリーチ」

「海外のパブリックアウトリーチの事例」

といった発表のできるかたを募集しています。もちろんその他のパブリックアウトリーチに関する発表も歓迎します。皆さまの積極的な参加・発表をお待ちしております。』